

国登録有形文化財
大正期の土木技術を伝える

きゅうかつらがたに

旧桂ヶ谷貯水池堰堤



山口県山口市

小郡町（現・山口市）市街地、とりわけ「田町・津市・新丁・明治」地区は飲用に適した井戸もなく、川の水を飲料水として使用していました。しかし、地域の発展に伴う水需要の増加や伝染病への危機感も加わり、小郡では水道整備の機運が高まりました。大正11（1922）年工事に着工、翌12年によろやく施設が完成し、通水式が行われました。当時の給水形態は大口使用者や特殊な使用者のみ有料で給水し、それ以外の住民は町内各地に設置された無料の給水栓に水を汲みに行く方法でした。

旧桂ヶ谷貯水池堰堤は堤長23.6m、高さ13.4m、貯水量37,177^{m³}の緩やかなアーチを描いたコンクリートダムですが、高欄と取水塔に赤レンガと石垣を使用しています。市松にレンガを積んだ高欄、レンガを徐々にせり出させた蛇腹と呼ばれる装飾がアクセントになっている取水塔。かつて満々と水を湛えた貯水池に映る赤い塔は、周りの木々が緑を添えて、一枚の風景画を見るような姿であったろうと思われます。

旧桂ヶ谷貯水池堰堤へ向かう入り口に残る旧桂ヶ谷接合井建屋は、大正期に流行したデザインが取り入れられています。かつてはここに上水道の濾過池もあったということですが、今は建屋に残る「水」をデザインした文字だけが当時を物語っています。

その後、小郡は桂ヶ谷貯水池だけで水需要に対応できなくなったため水道拡張工事に着手。昭和3（1928）年に羽根越堰堤が完成しました。桂ヶ谷貯水池堰堤を一回り大きくした堰堤は堤頂44m、高さ18.2m、有効貯水容量102,815^{m³}という全面コンクリート製です。ダム本体の重さで水圧をささえる重力式ですが、半アーチ式の構造も持っており、昭和初期としては珍しい構造といえます。

戦後、榎野川を水源とする大規模な上水道施設が建設され、桂ヶ谷貯水池も羽根越貯水池堰も上水道施設としての役目を終えましたが、山口県下で下関に続く2例目の水道施設であること、当時の土木・水道技術の高さを伝える意味でも、重要な構造物と位置付けられるのではないのでしょうか。

■位置図



旧桂ヶ谷接合井建屋 大正12年（1923）建設



町内に設けられた給水栓（山口県小郡下郷）



旧小郡上水道 羽根越堰堤（2016.11.7撮影）
玉石C重力式ダム（曲線）幅2.7m、堤長44m



上郷取水場と榎野川
榎野川を流れる水を取水ポンプで約5km離れた朝田浄水場まで送っている



国登録有形文化財「旧桂ヶ谷貯水池堰堤」
長さ23.6m、高さ13.4mのコンクリート製の堰堤は緩やかなアーチを描く。